

「たねだんごづくりについて」

「たねだんご」とは？

赤玉土とケト土を混ぜてよく練って作った土のダンゴに、花の種を練り込んで、それを花壇に植えこむ形で行う新しい種まきの手法として公益社団法人日本家庭園芸普及協会が推進したプログラムのこと。

■メリット

- ・地面に蒔いた種が強風で飛んだり豪雨で流れたりすることなく、ダンゴの重みで安定した発芽が見込める
- ・ダンゴを作る作業が簡単で楽しく、誰でも取り組めることから、子どもたちへの学習プログラムとしても活用されている

■資材

- ・赤玉土（粉みじん） 3割
- ・ケト土 7割
- ・肥料（微粉ハイポネックス）
- ・秋蒔き種
- ・鉢皿やビニール袋（用土を捏ねる時に使用）



■花材（例）

<春蒔き種>

ハウセンカ、ヒャクニチソウ、コスモス、マリーゴールド、ハゲイトウ、クレオメ、センニチコウ、帝王貝細工など

<秋蒔き種>

ヤグルマギク、ハナビシソウ、ムギセンノウ、カスミソウ、ヒメキンギョソウなど

肥料（例）



＜タネだんごの作り方＞

①赤玉土とケト土を混ぜる

- ・素手、又は、薄手のビニール手袋を着用するとよい。
- ・希釈した肥料を足しながら混ぜていく。
- ・ボソボソしたり、ベチャベチャしたりでは土がだんご状にまとまらない。やわらかさの目安は、少し硬めのダンゴが作れるぐらい。混ぜるだけでなくまとまりがよくなるまでよく練る。



②良く混ざったら小さく分ける

- ・キンカンぐらいの大きさに分け、丸める。



③丸めたダンゴをつぶして、中に肥料を一つまみ入れる。（当日は省略）

- ・緩効性肥料（徐々に溶けだし効果が長続きするように工夫された肥料）をいれます。



④団子状に丸め、まわりに種をつける。

- ・種は、すべてまとめてトレイなどに入れておき、トレイの中に転がすようにして、数種類が均等にダンゴに付着するようにする。



⑤種の着いたダンゴのまわりに珪酸塩白土の粉末を付ける（当日は省略）

植物の生長に必要なミネラルの補給や根腐れ防止に役立ちます。珪酸塩白土をまぶした白いダンゴは、花壇に植え付ける際に、どこに置いたのかが良く分かる。



<花壇への植え付け>

- ⑥花壇など植え付ける場所の土をならし、枯葉や石などを取り除いておく。
植え付ける前には、花壇の土をよく耕す。
元肥として、緩効性肥料を混ぜる。



- ⑦たねダンゴを置く間
隔春蒔きは40センチ間
隔

秋蒔きは30センチ間隔にする。

- ⑧たねダンゴを手のひらで軽くつぶして置いていく。

植え付けるとき、たねダンゴは手のひらで挟み軽くつぶす。
つぶすことにより花壇やプタンターの土に良くなじむ。又つぶすと、まわりに筋が入ることにより根がダンゴ内に入りやすくなる。



- ⑨植え付け後は、たっぷりと水やりをする。

■スケジュール（例）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
<春から活動を始める場合（秋に開花）>						<秋から活動を始める場合（春に開花）>						
5月～6月 たねダンゴづくりと植え付け						10月～11月中旬 たねダンゴづくりと植え付け						
水やり追肥・除草などの管理						水やり追肥・除草などの管理						
6月下旬～9月末頃 開花						1月下旬～4月末頃 開花						

■参加者への配慮

- 土を直接手でこねるので手に傷がある時や、アレルギーなど皮膚の弱い場合などは手袋を使用する。（ケト土は爪の中に入ると取れにくく、色がついたりするので、手袋を使用するほうがよい。）
- 出来上がったたねダンゴは、あんこ玉やチョコレートのように見えるので子供が誤って口に入れないように注意すること。